

CBDCA+nab-PTX ± ペムブロリズマブ療法（3-4週毎）

医薬品名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
ペムブロリズマブ注	200mg/body	30分	↓																				
デキサメタゾン注	6.6mg	30分	↓																				
パロノセトロン注	0.75mg																						
nab－パクリタキセル	100mg/m ²	30分	↓							↓							↓						
カルボプラチン注	AUC6	2時間	↓																				

■副作用への対応

- 悪心嘔吐、食欲不振 ----- 食事が摂りづらい時は、食べられるもの、好きなものを少しずつでも食べる。水分を摂るようにする。
- 便秘 ----- 点滴後1週間は便が出にくくなることもあるので、排便記録をつける。便秘薬が処方されている場合は使用する。
- 口内炎 ----- 予防のために食後の歯磨き、頻回（8回/日以上）のうがいをする。
- 好中球減少 ----- 感染症予防のために、外出後だけでなく自宅で過ごす時も手洗い・うがいを頻回（8回/日以上）に行う。
- 末梢神経障害----- 治療を繰り返すことによって手足がしびれることがある。
- 関節痛・筋肉痛 ----- 点滴後、関節痛や筋肉痛を感じることもある。痛みが強い場合は鎮痛剤を使うことがある。
- 脱毛 ----- 点滴後、早ければ2週間程度で髪の毛が抜け始める。帽子やウィッグを利用する。

■免疫チェックポイント阻害薬（ペムブロリズマブ）の副作用への対応

- 間質性肺疾患 ----- 息切れ、息苦しさ、空咳、発熱の症状が現れた場合、速やかに病院に連絡する。
- 大腸炎 ----- 腹痛を伴う粘液便、血便が現れた場合、速やかに病院に連絡する。
- 1型糖尿病 ----- 口や喉が渇き、水分摂取が普段より多い、尿量が普段より多い場合は速やかに病院に連絡する。
- 神経障害 ----- 手足に力が入らない、食べ物が飲み込みにくい場合、速やかに病院に連絡する。
- 皮膚障害 ----- 体に発疹が出る事があるが、ひどい口内炎、まぶたや目の充血を伴う場合は速やかに病院に連絡する。

■その他

- 免疫チェックポイント阻害薬は、治療終了後に副作用が発現することも報告されている。過去に治療歴がある場合は、注意が必要である。